

凧揚げ大会



1月13日(日)野市ふれあい広場で「第38回三代交流新正凧揚げ大会」、同20日(日)香我美町徳王子八丁で「新春凧揚げ大会」が行われ、手作りの土佐凧が天空を彩りました。野市の大会では、自作の凧の出来栄や揚がる様子を見て審査する大会も行われ、優秀な凧には賞が贈られました。

また、両大会ともに、凧に付けられた竹籠から景品券がばらまかれる「トバシ」が行われ、空を見上げて籠が開く瞬間をじっと待ち続けていました。籠が開くと、大人も子どもも我先にと、券が飛んでいく方向へ一直線。手にした券をお菓子など、たくさんの景品に交換して笑顔いっぱいでした。

市長談話室

4

事前復興の観点から 防災を考える



清藤真司

毎日、寒い日が続いています。皆さま、体調はお変わりありませんか？
かくいう私は、ある週末、熱が出て体の節々は痛いし、頭もガンガン！
とにかく体を休めなければと、寝て寝て寝て…。そのときに、お世話になったのが“ウコン”。
「飲む機会が多いときに」というイメージの強かったウコンですが、体がとても楽になりました。
インフルエンザも流行っています。皆さま、疲れを残さず、寒い冬を乗り切りましょう！

東日本大震災発生から、2年がたとうとしています。津波による深刻な被害を受けた地域では、災害時の被害を最小化する「減災」の考え方のもと、津波災害に対応した、ハード・ソフト両面から抜本的に防災機能を強化した、まちづくりが行われております。

津波災害に対応したまちづくり
これは、被災地だけのことではなく、南海トラフ巨大地震による津波被害が予測される香南市においても重要な課題です。

そこで、今月から事前復興の観点から考える防災について、数回に分けてお伝えしたいと思います。まず、1回目となる今月は、被災地の復興のまちづくりの方策の中でもクローズアップされている「高台移転」についてです。

高台移転

◆長期的な視点から実現したい 津波防災事業

今、香南市では、地震や津波から市民の命を守ることを最優先に考え、高台や避難タワーに避難するために必要な事業を大至急で進めています。

それと並行して、津波被害から確実に逃れる方法として、実現するには時間を有しますが、高台移転と立体換地を検討しています。

高台移転は、津波で浸水すると予想される住宅を対象に、津波に襲われないう高台へ地震に強い頑丈な住宅を建て、そこに移転していただくという事業です。手法としては、防災集団移転事業、危険住宅移転事業、土地区画整理事業などを研究しています。あわせて、津波に耐えることができるビルを建設する方法も検討しています。これは、地震の揺れにも津波のエネルギーにも十分耐える構造を持つビルを、津波の来ない高さ以上で建築する方法

◆関係する皆さんの合意形成

高台移転や立体換地は、皆さんの大切な財産を移転するもので、事業への主体的な参画や行政と協働が進めることへの合意が必要となります。さらに、移転先では新しい地域社会を築くためのまちづくり施策が、移転跡地では地域の活力を維持する土地利用の促進が課題となります。このまちづくりや土地利用についても、市民の皆さんと行政が合意形成を図り、協働で事業を推進することが欠かせないこととなります。

今後は、地区懇談会などを通じて、高台移転や立体換地に関する情報提供や意見聴取を積極的に進めてまいります。巨大地震や津波から根本的に逃れる方策としての高台移転や立体換地の事業の実現に向けて、ご理解とご協力をお願いいたします。

おやすみの1冊

さよならドビュッシー
中山七里/著
ピアニストを目指す16歳の少女が火事に遭い、全身に大やけどを負うが、ピアニストになるためレッスンを励む。ところが周囲で不吉な出来事が次々起こり、やがて殺人事件が発生…。「第8回このミステリーがすごい！」大賞受賞作品。
ただ今、映画公開中!!

